

【旭川高専】第66次南極地域観測隊として本校古崎教授が再び南極へ

10月27日から4か月の間、「第66次南極地域観測隊」夏隊の一員として、本校古崎教授が南極へと出発します。

同教員は、第46次南極地域観測隊（越冬隊）として、雪氷観測の支援業務に従事しており、今回はその経験から選出されたものです。南極大陸を覆う厚さ2,740mの氷床を3か年かけて掘削し、世界最古となる100万年前の氷柱「アイスコア」を採取する作業に従事するため、先遣隊として参加します。

出発前に観測隊員が一堂に会する打合せでは、結束力を高めるために高専出身者の隊員とオリジナルTシャツを着用し、高専機構ロゴマークと共に記念写真を撮影しました。

【高専出身隊員での記念撮影】※2列目右端が古崎教授

